

添付文書

作成年月日 2002年 9月10日 (新様式第1版)
改訂年月日 2006年 3月31日 (第2版)
改訂年月日 2008年 3月21日 (第3版)
改訂年月日 2014年 12月18日 (第4版)

届出番号 13B2X00206000011

機械器具 22 検眼用器具
一般的名称 近点距離計、コード No12821000
一般医療機器 (クラス I)

販売名 石原・大塚式近点測定器

【禁忌、禁止】

本品を曲げ、切削、打刻等二次加工は絶対にしない事

【形状、構造及び原理】

本器は木製フレームに顎台、前後する視標、目盛、テストフレーム等が取り付けられている。近点視標を前後させ、近点距離を測定する機器である。

400mm×250mm×490mm



【使用目的又は効果】

近点距離の計測
計測範囲 0～350mm
顎台上下 50mm
矯正用テストフレーム
視標 0.6、1.0

【使用方法】

- (1) 検査は視標に影が出来ないように明室で行います (500 LUX程度が望ましい)
- (2) 視標は0.6が良く利用されるが、近点値に大きな影響はない。
- (3) 被検者を顎台と額当てで被検眼が視標に正対する様に調節します。
- (4) 角膜頂点に物尺の0点を合わせます (左右のミラーボックスで観察します) (正確には角膜より2mm奥になります)
- (5) 片眼に遮蔽板を入れ片眼ずつ検査します。
- (6) 被検者に視標のボケ、明視の主観的感覚基準を練習によりもたせます。
- (7) 視標を2.5cm/sec程度に前後の移動速度で動かします。
- (8) 近点距離は視標を遠くより眼前に近づけ視標がボケる (消失閾 遠→近) 距離を物尺で測定します。 (数回行って平均します)
- (9) また消失閾 遠→近と、出現閾 近→遠をそれぞれ数回行って両者の平均をとる方法もあります。
- (10) 近点値は1m/近点距離=調節度(D)で求められます。 (ディオプター)
- (11) 調節力=1m/近点距離(D) - 1m/遠点距離(D)で求められます。
- (12) 調節力の年齢毎の正常値は石原忍先生の表 等をご参照下さい

- (13) 眼精疲労の判定は近点距離の反復測定法でおこないます。 (作業前後の値を比較します)

【使用上の注意】

- (1) 本器は金属とガラスよりなっており、落下等による破損に注意ください。
- (2) 本器及び患者に異常等があったときは使用を中止し適切な処置をして下さい。
- (3) 本器に故障、破損等がありましたら修理して下さい。

【保管方法及び有効期間】

- (1) 常温、常湿、ほこりの少ない所にカバーを掛けて保管して下さい。
- (2) 使用期間は特にありませんが、通常6年をめぐにご使用下さい。

【保守、点検に係る事項】

- (1) 視標に汚れ等、出ましたら交換してください。
- (2) 視標等の動き等が悪くなりましたら修理してください。
- (3) その他、具合が悪くなりましたら修理してください。

【包装】

一台単位

【主要文献及び文献請求先】

氏名 半田屋商店
住所 〒113-0033 東京都文京区本郷3-37-4
電話 03-3811-0087
FAX 03-3818-9695

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

株式会社 半田屋商店
〒113-0033
東京都文京区本郷3丁目37番4号
TEL 03-3811-0087
FAX 03-3818-9695